

福井放送

活動名	FBC 読み聞かせ
実施期間	令和 6 年 6 月～令和 6 年 12 月
実施回数	会場 7 回

【事業実施の成果・課題】

読み聞かせ事業はアナウンサーにとっても子どもたちの反応を直接体感できる貴重な時間になっています。子どもたちの豊かな感性と対峙することは何度経験しても新鮮な気持ちになりますし、若手のアナウンサーにとっても自己の表現について考えるチャンスでもあります。

絵本の読み聞かせ以外にも、アナウンサーの仕事についての紹介や、早口言葉、原稿読みの体験なども取り入れています。子どもたちにも好評です。

地元密着のローカル局として、地域貢献も担う読み聞かせ事業。民教協の事業としての取り組みということで認知度も年々上がってきており、学校からの要望も増えているように感じています。これからも子どもたちの豊かな未来のために取り組んでまいります。

【事業担当者およびアナウンサー（講師・読み手）の感想】

＜坂本優太アナウンサー＞

普段はにぎやかな一方、読み聞かせが始まると作品に入り込んでくれる児童がほとんどで、登場人物の読みわけを工夫したところ、わかりやすかったという感想をもらうことができた。

＜中村海里アナウンサー＞

体育館で外や扇風機の雑音がある中、全学年が物語に集中して聞いてくれており、セリフやナレーションに緩急があったことで興味が湧き集中することができたという感想をもらうことができた。

＜手賀梨々子アナウンサー＞

アナウンサーの仕事に興味がある生徒も多かったのも、今後、放送局での仕事についても伝えられる機会があるといいと思う。

＜中村謙太アナウンサー＞

感想を聞くと全員の手が上がるほど積極的な児童たちで、早口言葉や原稿読みのアクティビティにもスムーズに入ることができた。「間違えても良いから、挑戦する」という先生の教えが、しっかりと身につけているようだった。

＜増谷寧々アナウンサー＞

「登場人物の声色を変えると音読も上手になるのかな」と音読のヒントを聞きにくる児童もいて、この時間をきっかけに国語の音読にも積極的に取り組んでくれると嬉しいなと思った。

＜工藤遥アナウンサー＞

少人数のクラスだったが積極性のある子たちばかりでとても賑やかだった。絵本やテレビ局の仕事に興味を持ってもらえたように感じる。

<山崎航アナウンサー>

子どもたちに分かりやすく読むことを工夫する中で、声色やトーン・スピード・間などで変化を付けることの大切さを改めて感じた。

<坂田茉世アナウンサー>

発声練習や早口言葉では児童たちが大きな声を出して、意欲的に取り組んでくれていたのが印象的だった。絵本やアナウンスへの興味に、児童たちの笑顔が光る時間だった。

<揚原妃織アナウンサー>

今後授業で扱う本を読んだが、事前にこの読み聞かせがあったことで児童たちがより物語に深く入り込めてくれていたら嬉しい。

<酒井拓海アナウンサー>

教室に一体感が生まれ、最後まで集中力を研ぎ澄まし、絵と内容にとことん向き合っていたように思う。勇気を出して手をあげたり、声を出したりするような「少しでも前向きな気持ち」につながっていることを期待したい。

<松田佳恵アナウンサー>

今回紹介した絵本は学校の図書室にある本から選んでいることを伝えると「へえ～！借りに行こう」という声も聞かれ、この時間が本に親しむきっかけになったらうれしいなと感じた。

【教諭・保育士・子どもたち・視聴者などの感想】

< 4 年生女子児童>

本を読むとき、ゆっくりで聞きやすかったです。声が大きくなったり小さくなったりして、こうして気持ちをこめて声を出しているんだとわかりました。

< 4 年生男子児童>

読み聞かせで本を読むとき、切る場所とかがすごく上手でした。早口言葉はすらすらできてすごかったです。活舌がよくなるように練習します。

< 3 年生男子児童>

読むときに声を変えて読んでいたのがすごいと思いました。ありがとうございました。

< 3 年生女子児童>

読むときは登場人物の気持ちを考えて読むことが分かったので、次に読むときは声を変えて読みたいと思いました。